

名古屋市環境科学調査センター年報 執筆規定

〔投稿論文の形式〕

- 1.投稿論文は、編集委員会が指定する以下の書式に従って日本語で書く。使用するソフトはWindows Word®若しくは当該ソフトと互換性のある文章作成ソフトを基本とする。

用紙	A4縦 横書き 24字45行 2段組
余白	上下23mm, 左右20mm
文字サイズ	タイトル(英和, 以下同じ.) - 16pt 著者名(英和, 以下同じ.) - 12pt 抄録 - 9.5pt (42字/行) ※タイトル, 著者名, 抄録は, センタリング指定. 見出し大 - 13pt 見出し小 - 10.5pt 本文 - 9.5pt 図表タイトル - 11pt
フォント	タイトル, 著者名, 抄録, 本文 MS明朝(和文フォント) Times New Roman(欧文フォント) 見出し大, 見出し小, 図表タイトル MSゴシック(和文フォント) Arial(欧文フォント) ※数字は, 半角(欧文フォント)にする.
字間幅	著者名 100% 見出し大 50% 見出し小 10%
段落間幅	タイトル 段落下80% 著者名 段落下130% 見出し大 段落上40% 段落下80% 見出し小 段落上10%
段組設定	段間 10mm 24字/行

- 2.投稿論文は、①表題部、②要旨、③本文(表及び図を含む)からなる。
- 3.表題部には、表題及び著者名を1行あけて和文と英文で記す。共著者で当所に所属していない著者名の右肩に、*1、*2などの記号をつけて、それぞれの所属機関をそのページの最下段に記載する。
- 4.要旨は、400字以内の和文又は800字以内の英文で、論文の内容を的確に示す要約を書く。

〔原稿の提出方法〕

- 5.原稿は、A4用紙に印刷できるように完成したものを、電子ファイル形式で提出する。

〔原稿の書き方〕

- 6.本文は、緒言、実験方法、結果、考察、結語、文献等の順序に従い、大見出しを付けて書く。
その他は、下記の例示に従うものとするが、これらに限定されるものではない。
①大見出しの前後に、それぞれ1行空ける。
②句読点は「、」と「.」を用い、括弧は、「(」と「)」を用いることとし、それぞれ1字として数える。
③段落の頭は、1字空ける。
④専門用語は、学術用語集(文部省)又はJIS用語に従うこと。
⑤化合物名は、原則としてIUPAC命名法に従い、日本語で書く。但し、論文を簡潔にするために、元素記号或いは無機化合物の化学式を用いてもよい。
⑥外国の地名、人名などはローマ字つづりで書く。但し、慣用され、一般的になったものは片仮名で書く。(例：アラスカ、モール法)
⑦単位は、原則として、SI単位を用い、SI単位に属さない単位を用いる時には、あらかじめその定義を明確にしなければならない。但し、慣用的に用いられている単位(下記参照)に関してはその限りでない。また、数字は、アラビア数字を用いる。
長さ：Å
質量：g, kg, t
時間：min, h, d
平面角：°, ', ''
体積：l (L), ml, μl (μ：シンボルフォント)
圧力：atm, mmHg, Torr
エネルギー：eV, MeV

磁束密度：G

モル濃度：M, mM, μ M (μ ：シンボルフォント)

⑧分率は，%，ppm, ppb, ppt等で記述してもよい。

⑨単位の積或いは商は，次のように記述する。

$\text{mol} \cdot \text{l}^{-1}$, $\text{mg} \cdot \text{l}^{-1}$, $\mu\text{g} \cdot \text{m}^{-3}$ (μ ：シンボルフォント)，

$\text{kg} \cdot \text{m}^{-3} \cdot \text{d}^{-1}$, mg/l , ml/min

⑩桁数の多い数字は，3桁毎に「，」で区切る．小数点は，「．」を用い，小数点の前に少なくとも1個の数字を置く．（例：「0.178」を「.178」としない）

⑪動物名，植物名及び微生物名は，イタリック体で記述する．

⑫図又は表を本文中に引用する場合には，「図1」又は「表1」等と記す．

⑬本文中の見出し，小見出しは，「1」，「2」，「3」，「1.1」，「1.2」，「1.1.1」，「1.1.2」等と記述する．

⑭本文中に引用する人名は，姓だけとする．著者が複数の時には，第一著者の姓だけを引用する．

⑮引用文献は，本文中，その項目の右肩に，「1,3」，「5-15」のように記す．

〔図と表〕

7.図と表の使用は，最小限にとどめる．同じ内容のものを図と表との両方で表現することは止める．

8.図や表の説明は，原則として日本語とする．

①表には，「表1」，「表2」などの番号を付け，番号と表題を表の上に記載する．表の注は，「*1」，「*2」などの記号を付けて，表の下に記載する．

②図には，「図1」，「図2」などの番号を付け，番号と表題を図の下に記載する．

〔文献の記載〕

9.文献名の略称は，邦文誌は「科学技術文献速報」などに従って，また，欧文誌は「Chemical Abstracts」などに従って記載する．

10.文献の記載方法は，以下の例に従うものとする．

①雑誌の場合

1) 三島聡子，大塚知泰，庄司成敬，坂本広美，安部明美：高架道路から水域への重金属の留出と由来，環境化学，**15**，335-343(2005)

2) Drapper D., Tomlinson R. and Williams P. : Pollutant concentrations in road runoff

:southeast Queensland case study., *J. Environ. Eng.*, **29**, 1179-1192(1984)

②単行本の場合

3) Bowen H.J.M. : *Environmental Chemistry of the Elements*, p.16-17, p.43, p.265, Academic Press (New York) (1979)

4) 日本薬学会編：衛生試験法・注解，p.54-57，金原出版（東京）（1980）

5) 松田好晴，小倉興太郎訳：溶液内イオン平衡，p.24-30，化学同人（東京）（1977）；Allen J.Bard : *Chemical Equilibrium*, Harper & Row Publishers (New York) (1966)

③インターネットの場合

6) http://www.env.go.jp/chemi/risk_assessment.html

〔その他〕

11.原稿提出後は，原則として著者校正を行わない．

12.例外として，投稿論文を英文で書く場合は，和文の論文形式に準ずる．